

大学の世界展開力強化事業 構想概要 千葉大学

【構想の名称】(タイプB-II)

大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)

【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ 目的

- ① 日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ② 学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③ 米国+欧州+日本の3つの異なる機関でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習

○ 人材像

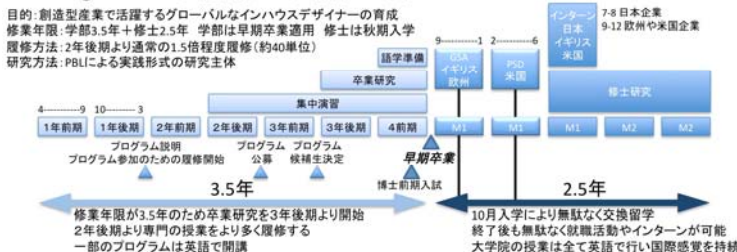
「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 6つの質の保証

- ① 学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ② 大学院で実施している英語によるプロジェクトベースラーニングを学部2年生後期より導入 実践的な教育を実施
- ③ 日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施し日本のデザインの独自性について理解を深める
- ④ 留学直前に行うプレゼンテーションを中心とした英語の授業でディスカッションに強い人材を育成
- ⑤ 卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥ 留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

CODE Program B7M5 大陸間デザイン教育プログラム



○ 質の保証を伴った大学間交流の枠組

- 各国のデザイン事情を反映した全く異なる質の高いデザイン教育をバインドしプログラムを実行
- 図左側 イギリス・欧州において「デザイン振興=デザインをさまざまな対象に適用すること」を学習
 - 図右側 米国において「企業におけるデザインマネジメントとしてデザインの資産的価値とその活用法」を学習
 - 図中央 千葉大学で「創造型産業に重要なサービスデザインとしてデザイン技術」を学習 ハード+ソフトのデザインを学習

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 教育内容の可視化

学務に長けた専門秘書(アマヌエンシス)による学生への留学に関するインストラクションを学部の1年生から積極的に実施 教員の行う授業を専門的な知識として理解し授業取得を提案 新たな授業科目の立案等も提案

○ 成果の普及

学内外に広く学部3.5年(早期卒業)+修士2.5年(6ヵ月×2大学留学+1.5年研究)のプログラムを普及展開

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 派遣・受入の環境

- 派遣・受入に対する「ワンストップサービス」をインターナショナルサポートデスクとアマヌエンシスが機能を分担しながら連携
- 日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 = インターナショナルサポートデスク
 - 専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 = アマヌエンシス

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

ワークショップ参加による留学疑似体験を実施
留学に関する旅費および滞在施設の補助・インターナショナルサポートデスクによるきめ細かい留学支援

○ 外国人留学生の受入れ

日本開催のワークショップによる留学疑似体験を実施
留学に関する旅費の支援
日本滞在における設備(留学生寮を含む)を提供
インターナショナルサポートデスクによるきめ細かい支援

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3	4	5	5	5
学生の受入	2	8	10	10	10